

平成29年度第3回札幌市食育推進会議

議 事 録

日 時：平成29年9月5日（火）午後2時開会
場 所：WEST19（札幌市保健所）2階 大会議室

1. 開 会

○事務局（川上健康企画担当部長） 皆様、こんにちは。

札幌市保健所健康企画担当部長の川上でございます。

定刻になりましたので、ただいまから、今年度、第3回目の札幌市食育推進会議を開会させていただきます。

本日は、委員の皆様には、お忙しい中をご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

本日の会議では、第3次札幌市食育推進計画の札幌市への答申案をまとめて決定していただく予定となっておりますので、ご審議のほどをよろしくお願い申し上げます。

以後、着席させていただきます。

まず、本日の出席状況でございますが、委員21名中7名が欠席となっております。また、石黒委員から遅参する旨の連絡がございましたので、石黒委員を含めて14名の出席となります。本日の会議が成立していることをご報告いたします。

また、本会議につきましては、札幌市情報公開条例の規定によりまして、市民の皆様へ公開することを原則としておりますので、札幌市のホームページ上で会議録を公表する予定でございます。

つきましては、会議内容を録音させていただきますこととあわせて、記録用として会議風景の写真を数枚撮らせていただきますことを、あらかじめご承知おき願います。

それでは、これ以降は荒川会長に議事の進行をお願いいたします。

2. 議 事

○荒川会長 それでは、早速、議事に入らせていただきます。

今、川上部長からお話がありましたとおり、本日は、第3次札幌市食育推進計画案の取りまとめまで進めなければいけませんので、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

早速ですが、第3次札幌市食育推進計画の案について、前回の会議でいろいろとご審議いただいた点も踏まえて、事務局のほうからご説明いただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局（加藤食育・栄養担当課長） 保健所食育栄養・担当課長の加藤でございます。

それではまず、資料の確認をさせていただきます。

上から順番に、会議次第、座席表、委員名簿があります。また、資料1から資料4があります。

資料1は、さきにお送りしております第3次札幌市食育推進計画の素案でございます。そのほか、皆さんの机の上に参考資料を配付しております。

不足している資料がございましたら、事務局にお申しつけください。

それでは、本日は、最初に、前回の会議の振り返りをさせていただきます。

前回は、第3次札幌市食育推進計画の素案を提示いたしまして、ご意見をいただきまし

た。特にご審議いただいた内容は、新しい取組と計画の指標についてでありました。また、ご意見をいただく期間として会議後10日間の日程を設け、欠席された委員からもご質問やご意見をいただく形にしておりましたところ、4名の方からご意見等をいただきました。

前回の会議では、検討いたしますという回答で終わっていたものがありましたので、本日は、その回答を含めてご説明させていただきます。

それでは、資料2をごらんください。

平成29年度第2回食育推進会議と会議後のご質問、ご意見です。

まず、1日の野菜摂取量についてのご質問がありました。

札幌市民（若年層）の野菜不足の数字ですが、学校給食100%の小・中学生は、給食の野菜は入っているのでしょうかというご質問でした。

この回答として、札幌市民のデータには小・中学生の給食での摂取量も入っております。

それから、若い世代を中心とした食育の推進のところで、ご質問やご意見をいただきました。その一つ目として、「スマート男子プロジェクト」は、細い人を推進するようなイメージがある。ほかのネーミングがあるとよいのではというご意見をいただきました。

こちらについての回答として、「食育男子プロジェクト」といたしたいと思います。

2点目として、高校生への啓発（高校生のための食生活指針）については、高校2年生とあったが、ひとり暮らしを始めるなど、近い将来ライフスタイルが変わる可能性がある高校3年生（定時制なら4年生）にアプローチしたほうがよいというご意見をいただきました。

この回答として、高校の最終学年にアプローチするように進めてまいりたいというふうに思います。

3点目として、若者の健診時に、病気と食のつながりがわかるようなリーフレットがあるとよい。また、資料配布時に、「授業を通して」「何学年に」「一言説明を加えてください」などと、文書に記載があるとよいというご意見をいただきました。

この回答といたしましては、食と病気との関係をわかりやすく示すリーフレットの作成を検討したいと思います。また、学校への資料配布の方法についても検討いたします。

4点目として、若い世代（大学生など）に、野菜は加熱したらたくさん食べられることや、よりおいしくなることがあるなどをアピールできる方法を考えてはどうかというご意見をいただきました。

この回答としましては、野菜摂取強化の取組の中で考えてまいりたいと思います。

それから、5点目として、若い世代に未成年者のアルコール飲酒の防止や多量飲酒にならないように啓発するとあるが、甘い飲み物の摂取についても啓発したほうがよいというご意見をいただきました。

この回答としましては、甘い飲み物については、間食とのとり方とともに、本編のコラムに掲載する形で、その内容を啓発してまいりたいと思っております。

裏面をごらんください。

食文化の継承と食環境整備の内容についてでございます。

東京から北海道に転勤して感じたのは、野菜がおいしいということだった。野菜の旬の情報があると食べるようになるのではないかというご意見をいただいております。

この回答としましては、中央卸売市場経営支援課で、旬の生鮮食品情報を出しておりますが、この情報をさらに深めて広く発信していきたいと思っております。

続きまして、地域における食育推進体制整備についてです。

まず、1点目ですが、日本栄養士会で8月4日を「栄養の日」とした。食育推進計画に「栄養の日」を入れていただきたい。それから、何々の日という日程を決めることは、子どもにもお年寄りにもわかりやすい啓発方法だと思うというご意見をいただきました。

この回答としまして、8月4日というだけではなく、毎月4日を栄養の日として啓発してまいりたいと思っております。8月4日という時期は、小学生や中学生、高校生は夏休み中でございます。ですので、この期間だけではなく、ほかにも「野菜の日」が毎月1日、それから、「食育の日」が19日ですが、それらとあわせて、さまざまな食育媒体を使って啓発してまいりたいと思います。

3点目として、市民一人一人の学びを促すような取組を工夫してもらいたい。一案として、市立図書館と協力して「食育関連コーナーやフェア」の開催、あるいは栄養学科のある学校などで、市民が利用できる図書館の紹介などというご意見をいただきました。

この回答といたしまして、今、食育栄養関連図書の貸し出しがある市内の大学や短大を調査しておりますので、市立図書館の情報とあわせて整理をして、情報の発信をしてまいりたいと思います。

続きまして、指標12、朝食を誰かと一緒にとる子どもの割合です。

小学生の共食率が低下している現状を打破するには、PTAや地域（子育てサロン等）との連携が重要と考えるというご意見をいただきました。

この回答としましては、今後も関係機関と連携し、共食の重要性について啓発してまいりたいと考えております。

続きまして、指標16です。

1日1人当たりの家庭からの廃棄ごみ量についてです。

指標は、家庭からの廃棄ごみとするより、生ごみの量としたほうが食育推進計画に伴った数字となるのではというご意見でした。

この回答ですが、指標について環境局と調整した結果「生ごみの原料・リサイクルに取り組んでいる世帯の割合」といたします。

3ページ目をごらんいただきたいと思っております。

指標18、北海道産食品（米など）や札幌産の食品を利用する人の割合についてです。

地産地消も給食で進めていきたい内容の一つだが、地産のものの価格が安いわけではなく、給食費との兼ね合いも考える必要があるのではというご意見をいただきました。

この回答といたしましては、今後も給食費との兼ね合いを考えながら地産地消を進めて

まいりたいというふうに考えております。

続きまして、札幌市の現状という見出しの中のBMIについてです。

身長と体重から割り出している体格指数についてのご意見として、小学生の肥満の状況について知りたいというご意見がありました。これは、児童生徒の肥満度ですが、教育委員会から情報提供をいただきました。

小学校3年生では、約9割を超える子どもが標準体重になっております。しかし、小学校6年生や中学2年生のように、学年が進むにつれて標準体重からやや外れる子どもが増加しているようです。

ご質問の肥満に関する子どもについては、小学6年生の男子で13%、また、女子で8%が軽度肥満、中等度肥満、高度肥満という状況になっております。

4ページ目をごらんください。

全体を通してという項目でいただいたご意見です。

まず一つ目として、食と健康や介護食、離乳食などを進めてほしいというご意見をいただきました。

こちらの回答ですが、食と健康、離乳食に関しては、食育ホームページに掲載しております。また、各区保健センターでは、乳幼児健診時を通じて、食と健康、離乳食に関して啓発しております。介護食につきましては、一人一人の対象者の生活や介護度、また、嗜好等が乳幼児等と比べて大きく異なっていることから、そのようなリーフレットをつくっていくのは難しい面があると思いますが、今後、検討してまいりたいと思います。

二つ目として、食育を進めていく場所があるとよい、また、場所がわかるとよいというご意見をいただきました。

この回答としましては、現在、市内の調理室の情報を収集しており、これらの情報を整理して、情報提供を行ってまいりたいと思っております。

最後のご意見ですが、第2次食育推進計画期間中に発行したリーフレット等の一覧表があると参考になるのでは、また、ホームページの情報もまとめられていると利用しやすいというご意見がありました。

これらの回答ですが、ホームページにつきましては、札幌市保健所のホームページに食育情報がありまして、札幌市保健所で発行したリーフレットについて掲載しております。なお、そのホームページには、各区の食育関連リーフレット等がそこから外れておりますので、全市のものを合わせた形でまとめて掲載したいと考えております。

資料2の説明は以上でございます。

○荒川会長 ただいま、前回の推進会議等でいただいたご質問やご意見を、事務局のほうで整理して回答していただきましたが、ここで改めて委員の皆様からご質問やご意見がありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○荒川会長 それでは、事務局からのご説明でよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○荒川会長 どうもありがとうございます。

それでは、引き続き、第3次札幌市食育推進計画の案について、ご説明をお願いいたします。

○事務局(加藤食育・栄養担当課長) それでは、事務局での主な修正点についてご説明させていただきます。

資料3をごらんください。

まず、基本目標3の食文化の継承と食育推進体制の整備の部分でございます。

こちらにつきましては、資料1、食育推進計画素案の18ページをごらんください。

II基本目標3の食文化の継承と食育推進体制の整備ですが、この重点取組の(1)食文化の継承と食環境整備という文言についてです。

こちらの修正前は「食文化の継承」が後ろにあったのですが、これを前に持ってきて、重点取組として進めていきたいと思っております。

また、主な施策についても、①を「和食文化等の継承・実践」、②を「情報発信と食環境整備」の順番にしまして、①と②を逆転する形で進めていきたいと思っております。

ということで、19ページの第4章の施策の体系と展開の基本目標3の食文化の継承と食育推進体制の整備でも、同様に一部変更が生じております。

また、41ページから42ページにかけての基本目標3、食文化の継承と食育推進体制の整備については、今の修正点との関連で、主な施策の3-(1)-①のほうに「和食文化等の継承・実践」を、そして、②に「情報発信と食環境整備」を持ってきております。

次に、20ページをごらんください。

基本目標1、健やかで心豊かな食生活の実現についてです。

こちらの「取組の背景」については変更ありませんが、「取組の方向性」の記載を新たに入れることとしました。また、それぞれの重点取組ごとに、それに関連する指標を入れる形に変更しました。

それから、49ページから50ページにかけての推進に当たっての指標については、後ほど説明いたします。

また、全体としては、市民の皆様が計画について興味を持ち、より理解していただけるようにコラムをつくり、この本編の中に追記してまいりたいと思っております。

それでは、資料3-1の第3次札幌市食育推進計画指標(案)の新旧対照表をごらんください。

左側の欄には旧指標ということで、先月行った第2回食育推進会議で提案させていただいたことを記載しております。また、真ん中の欄の新指標には、本日の第3回の会議で提案したい内容を記載しております。そして、一番右側にはその変更理由を記載しておりますが、それぞれの項目についてご説明させていただきます。

まず、指標①の「食育に関心のある人」を「食育に関心を持っている人の割合」にした

いと思います。これは、第3次食育推進基本計画に文言を合わせたいと思います。

次に、指標②の「朝食を欠食する子どもの割合（小5）」を「朝食を欠食する子どもの割合（小6）」に変えたいと思います。これは、国が第3次食育推進基本計画で、目標の参考としている平成28年度全国学力・学習状況調査から引用していることから、札幌市も同様の指標を掲げたいと思います。

そうしましたところ、札幌市の小学校5年生の現状値は6.4%ですが、小学校6年生は5.8%でございますので、関連する指標の数値も変わるということになります。

次に、指標⑬の「地域等で共食したいと思う人が共食する割合」を「家族や友人、職場や地域の人などと共食する人の割合（全年代）」と変更したいと思います。これについては、全年代の目標値を掲げることとしたいと思っています。また、現在、現状値がありませんので、今後、調査をしまして、目標値をその調査結果の5%アップをした数値にしたいと思います。

国の第3次食育推進基本計画では、「地域等で共食したいと思う人が共食する割合」となっております。高齢者が増加したり、単身世帯がふえるので、地域等で共食する人をふやすことが重要ということで国の施策として掲げられておりました。札幌市としましては、共食をするという考え方は、高齢者だけではなく、全年代に必要ということで、「家族や友人、職場や地域」という文言も入れて、その方々が共食する割合を上げていくという形に変えたいと思っております。

また、指標⑭として、全年代のほかに70歳以上の方にも同様に、「家族や友人、職場や地域の人などと共食する人の割合」という指標を掲げたいと考えております。

変更理由はこちらに記載しておりますが、今後、高齢者人口が増加し、高齢単身者も増加する中、共食の重要性を啓発し、共食の機会をふやすことにつなげるためということでございます。

次に、指標⑮の「1人1日当たりの家庭からの廃棄ごみ量」を「生ごみの減量・リサイクルに取り組んでいる世帯の割合」にしたいと思います。現状値は86.9%ですので、目標値を94.5%としたいということです。

変更理由ですが、委員から「指標を生ごみの量としたほうが、この計画に合っているのでは」というご意見をいただいたことから、改めてこの指標を見直したところです。そして、この指標の目標値の参考となるのは、札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2015も同様の指標を掲げておりして、そちらの指標と同様のものをこの食育推進計画に掲げることといたしました。

続きまして、指標⑯の「市民の農業体験者数」から、⑰ということで番号が変わりますが、「サッポロさとらんどに来園者数」と変更しました。これは、旧指標と同様に農政部からの指標になります。こちらの現状値は70万人で、目標値が71.5万人です。

変更理由ですが、農業体験の機会を与える場の入場者として、サッポロさとらんどに来園者数にしたいということです。

また、こちらの目標値の参考となりますのは、第2次さっぽろ都市農業ビジョンです。裏面をごらんください。

指標⑧の「お正月や節句などの行事食を食べている人の割合」を「お正月や節句などの行事食を食べるなど、伝統的な食文化に親しんでいる人の割合（全年代）」に変更しました。

こちらの変更理由ですが、指標の目的が伝統的な食文化に親しむことであるため、市民にわかりやすい表記といたしました。

同様に、若い世代にもこういう内容の啓発が必要ということで、20歳代から30歳代の目標値を掲げる予定でおりますが、変更理由は指標⑧と同じです。

続きまして、指標⑫の「食品の安全性に関する知識があると思う市民の割合（20歳代～30歳代）」ということで今回は指標を掲げておりましたが、こちらの指標は掲げないことといたしました。

この理由としましては、安全・安心な食のまち・さっぽろ推進計画では、20歳代から30歳代をターゲットとして計画策定をしていないためです。

続きまして、差しかえの資料についてです。

資料3-2をごらんいただきたいと思います。

皆さんにお送りした本編の中で、指標が変更になったものや想定が変わった部分などがありますので、それについてご説明をさせていただきたいと思います。

まず、本編の14ページの6番、家庭ごみの量についてです。

(1) 現状の①家庭ごみの量（指標12）ですが、こちらに記載している内容を一部変更しております。また、図22ですが、こちらを「生ごみの減量・リサイクルの取組」に変更しております。

また、裏のページですが、(2)の課題の部分の一部に修正を入れておりますので、差しかえ後にご確認をお願いいたします。

次に、本編の25ページをごらんください。

下の指標の表ですが、一番下の欄の「食品の安全性に関する知識があると思う市民の割合（20歳代～30歳代）」の行を削除しましたので、差しかえをお願いします。

それから、本編の34ページの「食」の安全・安心の確保の推進ですが、こちらも、20歳代～30歳代の指標がなくなりましたので、差しかえをお願いいたします。

それから、本編の50ページ、推進に当たっての指標でございます。

指標の一番最後の⑬食品の安全性に関する知識があると思う市民の割合（20歳代～30歳代）ですが、指標ごと削除となりますので、差しかえをお願いいたします。

以上が、資料の差しかえ部分となります。

事務局での全体的な修正点につきましては、以上でございます。

○荒川会長 前回の会議を踏まえて事務局で修正を行った点、基本理念と基本目標と指標の見直しなどを図った点についてご説明いただきました。また、その変更に伴って本編の

差しかえもありましたが、これは今ご提案があったとおりでございます。

事務局で行った変更について、皆様からご意見やご質問などがあればお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○荒川会長 今回は、本質的な変更ではなく、微調整ということですので、事務局で作業をされた変更をお認めいただくことでよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○荒川会長 ありがとうございます。

続きまして、第3次札幌市食育推進計画の答申についてです。

前回の会議と本日の会議で、計画案についてご確認をいただきました。この内容を持ちまして、第3次札幌市食育推進計画の案として札幌市に答申させていただくということでもよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○荒川会長 ありがとうございます。

それでは、この計画案を答申させていただきたいと思います。

それでは、議事（3）その他ですが、事務局からご説明させていただきたいと思います。

○事務局（加藤食育・栄養担当課長） それでは、参考資料の説明をさせていただきます。

まず、1点目は、資料4の多目的コホート研究（JPHC Study）というものです。出典は国立がん研究センターとなっております。

朝食の欠食と脳卒中との関連についてということで、これは、1週間当たりの朝食摂取回数が少ないと脳卒中のリスクが高くなるという結果を示している資料です。昨年、国立がん研究センターから出されたものですが、朝食の重要性が改めて示されている内容になっておりまして、この資料の中身を簡潔にまとめて、本編のコラムに掲載する予定としております。

続きまして、今後の流れについてご説明させていただきます。

本日の会議結果を第3次札幌市食育推進計画案として市長に答申いたしますが、会長、職務代理人から市長に手交していただきたいと思いますと考えておりますので、よろしく願いいたします。

答申後の流れでございますが、庁内会議、市議会報告、パブリックコメントを経て、公表は来年の3月を予定しております。

なお、この素案は、庁内関係会議、パブリックコメント等を経て、計画書となりますので、会議や市民からの意見に応じて修正される可能性があります。また、皆様の団体からの活動報告や札幌市の取組、コラムなどを入れての計画書となりますので、本日の計画書が最終のものではないということをご承知おきいただきたいと思います。

続きまして、参考資料4-1ですが、本日ご欠席の石塚委員から「くわ〜る通信」ということで情報提供いただきましたので、ご紹介いたします。

この2枚目のECOカフェマイカップのところに、地域子育て事業報告が載っていますが、このような食育活動につきましては、札幌市保健所ホームページから食育情報に入ってくださいますと、食育活動紹介が投稿できる仕組みがあります。ですので、提供いただいた支援事業報告についても石塚委員にお願いいたしまして、ホームページに掲載したいと思っております。

皆さんの団体や施設でも食育活動をされていると思いますが、食育活動をいろいろな方に知っていただく機会になると思いますし、食育を広げる一つのきっかけにもなると思いますので、ぜひ食育情報のホームページへの投稿をお願いいたします。

そこで、本日は、皆さんに食育情報の食育活動紹介のページを資料としてお配りいたしました。裏のページは、食育活動紹介の食育ホームページ掲載申込書になっております。先ほども少し触れましたが、札幌市食育情報で検索していただきますと、「食育・イベント活動紹介投稿」ということで投稿ができるページに入れますので、ぜひ皆さんにもご投稿いただきたいと思います。

続きまして、本日、カラー刷りの資料を2枚用意しております。

これは、札幌市お弁当プロジェクトのレシピ募集のチラシですが、9月25日までを申し込み期間としておりますので、所属の関係者の皆様にぜひお知らせいただきたいと思います。

この応募要件には、札幌市民が不足しがちな野菜を入れることや、道産品を使って地産地消を進めることや、主食、主菜、副菜を整えて、栄養バランスをよく食べるということ盛り込んでおります。入賞者には、札幌市長賞や北海道日本ハムファイターズ賞などの賞状と副賞が贈られることになっておりますので、ぜひ、ご応募いただきたいと思います。

私からは以上でございます。

○荒川会長 ありがとうございます。

今、ご紹介がありましたけれども、食育に関するいろいろな団体がさまざまな取組をしている現状がありますので、こういったことを推進していくためには、底辺を広げて連携していくことがとても大事だと思います。そういった意味でも、こういうホームページなどを活用して情報を共有いただければと思います。

市内でいろいろなイベントがありますが、もう少し多くの方に知っていただけるとよかったとか、市民の方々が参加できる機会があったのに参加できなかったというイベントが数多くあると思います。そういったことを一つ一つ消していき、イベントが有効に行われて、全体的に盛り上げるためにはこういったことが必要かというふうに思います。

せっかくの機会ですから、皆様が所属されている団体などで、こんな食育イベントをやっていますということがありましたら、この場でご紹介いただきたいと思います。いかがでしょうか。

例えば、保育園や幼稚園というのは、そういう活動を多くされていると思うのですが、いかがですか。

○相良委員 それでは、幼稚園のほうからお話しします。

幼稚園というのは、それぞれの園でやっているイベントが多く、全体として、みんなこんなふうにやっていますというのは非常に少ないというふうに思います。ですので、幼稚園などで一番多いのは、野菜を育てて、自分たちで収穫して、それを自分たちで料理して食べてみるということが、意外と多いと思います。

それ以外ですと、お泊り会をどこでもやるのですが、それを自分たちで料理するために、自分たちでお買い物に行きます。けれども、そのような形で食に触れる機会は、年に数回になってしまいました。

また、給食やお弁当などもそれぞれの園でやっていることが違いますので、お弁当を大事にしている園もありますし、給食を大事にしている園もあります。ただ、幼稚園などは、まだ給食施設がないので、外部搬入の給食が多くなっているのですが、それは残念なところであります。

今、私たちが一番懸念しているのは、イベントということではないのですが、幼稚園と保育園が一緒になって認定こども園ができているのですが、さまざまな行政のいろいろな絡み合いがあります。それは、認定こども園で、一部の子どもは外部搬入の給食を食べて、ほかの一部の子どもでは自園調理の給食を食べておりまして、同じクラスで同じ給食なのですが、食べている給食が違うというということで、そういう問題がすごくあります。

食育の観点から、これは一体どうなっているのだろうかという問題が、今、認定こども園に移行したところでいろいろとあります。そんなところを掘り下げながら、いろいろな角度から食育について話し合っているところです。

○荒川会長 そういう課題や何かを共有する場面としても、ぜひ活用していただければと思います。よろしく願いいたします。

それでは、保育園のお立場からお願いいたします。

○菅井委員 保育園のほうは、こちらの案にも書かれているのですが、子ども未来局のほうから、例えば、8月であれば野菜摂取強化月間のポスターや、保護者向けに簡単なレシピを配布したり、活用してくださいということで資料が届いたりいたします。そして、それには、必ずアンケートがついてきて、それを提出しなくてははいけません。計画案の中で、保育所に関しては、全施設が取り組んでいるという形になっていると思います。

認可の保育所に関しましては、施設内に給食をつくる厨房施設があることが条件になっておりまして、新しい施設などでもその整備を進めております。そして、私どもの園も建てかえて、厨房が新しくなったのですが、調理している様子が子どもたちから見えるようにガラス越しになっております。

きょうも、子どもたちは外から遊んで帰ってきて、給食室の中を見て、きょうはハンバーグだとか、きょうはスイカだという感じでわいわい見えています。そのようなところでは、食べるということに関して興味を持ってもらうという役割を果たしているかと思います。

それから、給食の献立に関しては、基準献立ということで、札幌市の栄養士さんが立ててくださった献立表が毎月送られてきますので、多分、そちらを利用している施設が大半ではないかと思います。中には、こだわりを持って、オリジナルで献立を立てて取り組んでいる保育園もありますが、全て市の指導のもとにきちんと基準をクリアできるようにという形になっておりますので、施設によってばらつきがあるということはないと思います。

先ほど、幼稚園のほうからも、野菜を育てて食べたり、収穫したり、自分たちで調理を試みたりということでお話がありましたが、そのような取組は保育園の園児も行っております。

昨日、トウキビの皮をむくということ子どもたちに経験してもらいましたが、子どもが職員室に来て、きょうはトウキビの皮を剥いてきました、今終わりましたという感じで教えてくれます。やはり小さいうちから、いろいろなものの形を知ることが大切だと思います。例えば、お魚であれば、スーパーで買うことが多いので、切り身しか知らないという子がいたりしますが、園によっては、大きな魚1匹を調理員が解体ショーのような感じで見せているというところもあったりして、小さいうちから取り組んでおります。

以上です。

○荒川会長 ありがとうございます。

緒方委員、調理師の世界でといますか、団体としての取組のようなことについていかがですか。

○緒方委員 私どもの団体は、中央卸売市場に事務所を持っております。

これは、以前からやっていることですが、まず、中央卸売市場の要請で親子料理教室というイベントを展開しております。これは、各ホテルの料理長クラスの方を呼んで、一生懸命取り組んでいるところです。

それから、各区民センターにおいても料理講習会をやっております。今月の25日には、札幌グランドホテルにおいて、地産地消・健康料理フェスティバルというイベントを行いますが、これは毎年行っておりまして、今回は、加藤課長の講演もありますので、皆さんにも参加していただければ幸いかと存じます。

私は、余り大きなことは言えませんが、西洋料理を担当しておりまして、和食をメインとしているこの委員会には気まずい思いで来ております。西洋料理も食育について一生懸命取り組んでおりまして、西洋料理協会のほうでも親子料理教室を開催しております。これは地方に行きまして、地方の地産地消を活用した取組に親子で参加していただいております。天気のいい日は野外でやっていただくのですが、雨天の場合は室内でという形で展開しているところでございます。また、協会自体も、食育に取り組んでいる先生をお招きして、講演会を実施しているところでございます。

四、五年前は、食育ということで相当盛り上がっていたのですが、最近は、また食育かという感じになっております。つまり、食育勉強会というのは、スムーズに我々の協会でも取り組むことができるようになってきておりまして、これからも努力していく次第でござ

ざいます。

以上です。

○荒川会長 ありがとうございます。

やはり、共有したい情報が出てきましたので、ぜひホームページなどを活用していただきたいと思います。

続きまして、市野委員、食生活改善推進員というお立場でのかわりについてお話しいただきたいと思います。

○市野委員 私たちは、札幌市の委託事業をはじめ、北海道健康づくり財団などの委託事業をたくさん抱えているほかに、それぞれ10区で各区の特色を出しまして、さまざまな事業に取り組んでおります。親子料理教室をはじめ、高齢者においては、食育に関する講話や、試食をお出しし、食の大切さを高齢者に向けて発信しております。

特に、去年ぐらいから、若者世代にも目を向けようということで、高校生を中心に年代別に、高校や大学などに行っていないなくても18歳から20歳ぐらいの若い方に向けて、食事をとりましょうということに取り組んでおります。それは、例えば、コンビニのお弁当を買ってきたら、もう一手間加えましょうということで、パックのお惣菜を買ったときは何か一つ手を加えて、それをお料理の1品にして食べていこうということ呼びかけています。全く異なるのではなくて、速くできる時短料理などにも目を向けて、今年度も高校1年、2年、3年というふうにかなり細かくやっていきたいと思っております。

ただ、新年度になってから、高校に入らせてくださいと言っても、受け入れ体制がなかなかない状況です。そちらのほうも、もう少しスムーズに受け入れていただける学校がふえるといいなと思っております。

きょうも、午前中に小学校のお母さん方を対象に子どもたちに食べさせるお弁当づくりを教えてほしいということで、事業をやってまいりましたけれども、そういうふうにして、年代別のそれぞれの時期に大切な食育活動ということで、日々、皆さんといろいろと考えながら活動しております。

○荒川会長 ありがとうございます。

飯田委員は、市民公募委員としてご参加いただいておりますけれども、日ごろの食育に対する思いや個人的な活動などがあれば、お話しいただきたいと思います。

○飯田委員 JAでやっている野菜収穫体験に行ってきました。本当に体験するのが大事だと思ったのは、農家の暖かいビニールハウスに入って、直接とって食べるトマトの収穫の体験をしました。その後で、お昼にレストランに行きまして、サラダなどがつくのですが、当然、トマトが出るわけです。文字どおり、食べてみてわかるその差といいますか、カラフルトマトという有名な農場でしたが、非常によくわかったということが一つあります。

もう一点は、明治がやっている食育セミナーがありまして、それにも顔を出してみました。むろん、食育がメインなのですが、運動などにも触れていました。それから、

お年寄りが多いので、お年寄りの介護食などに少し幅を持たせていたのですが、その場に来ている人たちの関心事にちょうどかみ合うような形の食育の講座で、工夫もされているし、みんなの要望をきちんと酌んでいることがよくわかりました。

それから、話を戻して申しわけないのですが、先ほどの素案のところでは少し意見があります。

前回と比べると非常によくできていて、わかりやすい形になっておりました。また、図も多くなりましたし、話の流れが非常にスムーズになったという意味では、いいものをつくっていただいたと思いました。

ただ、若干、表現で気になるところが1カ所ありました。あとは、これは誤植ではないだろうかというところが何カ所かあったのですが、簡単にお伝えします。

まず、恐らく誤植であろうというところの一つ目は、35ページの市場見学来場者数のところですが、呼び名を変えながらも同じ消費拡大フェアだと思うのですが、31ページにある数字と、ここの数字は、片方は3万人から増加で、もう片方は3万人から3万人になっております。ここが腑に落ちないといいますか、同じものでしたら合わせたほうが良いと思います。

それから、これは漢字表現ですが、41ページの上から4行目に、「女性の社会進出に伴って、男女に係らず」とあります。一応、国語辞典を見ましたが、「係らず」という漢字表現はないと思います。

それから、指標番号が落ちているところが1カ所ありました。12ページの一番上ですが、よくかんで味わって食べる人の割合というところですが、指標8が何らかの理由で落ちてしまったように思います。ただ、ここに指標8を入れると、並びの順番が少しずれてしまうという関係があります。

以上が誤植関係です。

そして、一つだけ、文章表現で少し気になるところがあります。恐らく苦勞したのだとは思いますが、11ページの(2)課題の1段落目と2段落目のところですが、

まず、1段落目で、バランスガイドの問題で減少したということです。そして、2段落目で、主食・主菜・副菜をそろえる人の割合は上昇したという形になっています。ここは、上昇して多数いるというのですから、恐らく21ページに載っている数字だと思うので、55.4%という形で入れてあげるのが親切だろうと思います。

もう一つは、1段落目と2段落目で、前回の答申案でも苦勞されていたようですが、その関係についてです。食事バランスガイドの問題と、主食・主菜・副菜の関係を、少し入れるとよいと思います。前回は食事バランスガイドを指標にしていて、第3次では、主食・主菜・副菜をそろえた料理を指標に挙げている、その理由と、だから新しい指標では、こちらを採用することになったというようなニュアンスを少し工夫されないと、1段落目と2段落目との関係がよくわからない感じになってしまいます。

ここは、都合が悪いから、別な指標を上げたということになりかねない側面が若干あり

ますので、これが実態を反映した一番いい方向性だと思って、こちらの食事形態に移したという感じを少し入れたほうが、読むほうとしてわかるのではないかと思います。

以上です。

○荒川会長 事務局からご回答いただけますか。

○事務局（加藤食育・栄養担当課長） いろいろご指摘いただいた内容につきましては、修正等を入れて、本編を作成したいと思います。

詳細な内容をありがとうございます。

○荒川会長 それでは、答申の際には、反映して整えるということによろしいですか。

○事務局（加藤食育・栄養担当課長） はい。

○荒川会長 ありがとうございます。

それでは、山部委員、栄養士会の立場で食育への取組等についてお願いいたします。

○山部委員 北海道栄養士会ですが、栄養士会自体が、道民の健康増進を食の分野からサポートすることを仕事としている団体です。

研修会や勉強会などを市民の方々に対しても、私どもは支部活動ということで、道内14の支部に分かれていまして、札幌支部として市民の皆様に対する食育活動を行っております。

例えば、先週ですと、8月28日に、スポーツをするお子さんのお母さんたち、保護者の方を対象にしたスポーツ栄養についての研修会をしています。また、そのほかにもさまざまな活動を行っておりますが、それについては割愛させていただきます。

一つ、もうできているのかはわからないので、お聞きしたいのですが、こういうふういろいろな研修会を行っていきまして、北海道栄養士会としては、自分たちが持っているホームページにそれをアピールするのですが、どこか札幌市で集約して食育に関するホームページの中で、こういう研修会があるとか、こういう勉強会があるということを、そこを見ると、いろいろな情報が載っているページがあるととてもいいと思うのですけれども、そういうものはあるのでしょうか。

活用させていただいていないのでわからないのですけれども、現在、そういうものをつくることのできるのであれば、栄養士会もそれを活用させていただきたいと思います。

もう一つ、先ほどの栄養の日ですが、日本栄養士会としては1年に1回なのですが、それを1年に12回としていただくことはとてもありがたいことです。これは、ぜひ日本栄養士会に自慢したいと思います。ありがとうございます。

以上です。

○荒川会長 ありがとうございます。

続きまして、宮原委員をお願いいたします。

○宮原委員 小学校の立場から、食育のことについて一言述べさせていただきます。

私は、小学校の立場で、この会議のみならず、本当に栄養士の皆さんと一緒に会議に出させていただくことが多くあります。例えば、食材の選定や給食費にかかわる問題など、

あらゆるところで栄養士の先生方、また、食育にかかわる皆さんが非常にご苦労されていることを身にしみて感じております。

私としては、食材を選ぶところから、栄養士さんたちがいかにこだわりを持って地産地消を考えながら、また、栄養価を考えながら、安全性、安心ということを考えながら選ばれているかということ、もう少し広く世の中に知らしめたほうがいいのではないかしらと思うこともございます。

学校では、もちろん、栄養士さんを中心にいろいろな食育をさせていただいているのですが、小学校の食育というと、食べる以外に、食べるマナーという部分の食育もあると思っております。

また、小学校は平成32年度から新しい学習指導要領になりますが、新しい学習指導要領の中では、これまでの学力を見直して、知識、理解はもちろんのこと、知識、技能の部分と、思考力、判断力、表現力が車の両輪のように学力の大事な側面であるということと、それプラス、エネルギーとその両輪を動かす力として学びに向かう力、人間性を大事にするということで、大学入試等もそれにかかわって変わってくるという方向性も出されております。

そうすると、食育でいろいろ学んだことを子どもたち自身が自分たちで考えて、自分たちの生活に生かし、それが社会や世界を動かす力になっていけばいいなと壮大なことを考えておりました。

皆様のいろいろなご意見を聞いて、大変勉強になりましたので、持ち帰って広めていきたいと思っております。ありがとうございました。

○荒川会長 ありがとうございました。

続きまして、本望委員にお願いいたします。

○本望委員 P T Aの立場から申し上げます。

この食育の活動にかかわらず、本当に関心のある方が講演会やお料理教室にたくさん参加されると思うのですが、P T A活動の中でも、それに全く参加しない人をどのように引っ張り出すかということは、本当に長年のテーマになっております。特に、P T Aの全国大会や全道大会、また、政令指定都市大会の中でも、食育という領域は必ず出てくるのですが、その中でも本当に関心のない、いろいろな学校のお便りや会報などでお知らせはするのですが、それを読まない人をどのように呼び出すかという努力が必要です。

幼稚園や保育園のお母さんだと、まだお子さんが小さいということで、関心があると思うのですが、小学生や中学生ぐらいになってきますと、今は、働いているお母さんが本当に多くなってきています。そういった方がP T A活動や食育のことにも無関心です。そして、共食という意味でも、お聞きすると、朝、子どもが食べる前に、もうお母さんが仕事に出ていってしまうというお家が多く、夕食に関しても、お母さんがフルタイムで働いているからか、9時とか10時にお帰りになるということで、家族がそろって食事をとることが少なく、孤食ということで、今、非常に問題になっています。また、そのようなこと

で、テレビを見ながら食事をするせいか、肥満児がふえているというお話もあります。

そのようなことで、皆さんの活動にできるだけ参加していただくよう、PTAのほうでもこれから呼びかけていきたいと思っておりますので、ぜひ、皆さんからのご協力をお願いいたします。

○荒川会長 ありがとうございます。

続きまして、藤田委員をお願いいたします。

○藤田委員 私は、つくるほうの立場でございます。

私どもは、これまで、地域の皆さんとのかかわりを含めて、食育ということの一つのテーマにして取り組んできたつもりです。

3年ほど前までは、毎年、秋の収穫期に市内の小学校の生徒200名ほどに参加いただきまして、バスを仕立てて、大体4ルートぐらいで、1日をかけて現場の畑あるいは田んぼに行くというような活動をずっとしてまいりました。

ただ、これも、一定のところまで、これ以上は無理かなという思いもありました。そして、もう一歩突っ込もうということで、その後、3年ほど前から市内を12地区に分けて、それぞれの地区で、札幌市はつくっているものが地区によって大きく違います。それぞれに特徴がありますので、それに合わせて、地区ごとに分散してやることにしております。

今は、年間440名から60名ぐらいで、年によって多少違いますが、小学校の高学年や幼稚園の年長さんの子どもたちと一緒に、播種から収穫まで年間を通して勉強していただいて、実際に収穫の喜びを知ってもらおうという活動をずっと続けております。

私どもはつくる側なものですから、どうやってできるのかということが中心になっておりました。芋はこうつくるのだよ、成長過程はこんなふうになっている、こんな虫もつくよ、そして、それを収穫して味わってもらおうということをやっています。これは、食べ物を大事にしようというようなことがメインです。

食育ということを考えて、そういう中で見ていきながら感じることは、最後は食べ方なのだと思えます。

今、例えば、農水省あたりのデータを見ても、野菜の摂取量が健康を維持するために必要な量に届いていないという数字を見ますと、食べ方や食のバランスについて、我々はもっと訴えていかなければならないと最近感じています。

今日は、具体的な数字を持ってきておりませんが、例えば、20代の男性であれば、米を1カ月に2回しか食べないというデータがあったりしまして、食のバランスについて本当にこれでいいのかと思えます。

今、野菜にしても消費量がどうしても年々減っていきます。米は最たるものです。今、かろうじて小麦が大体横ばいの水準です。魚は減っているようですけれども、肉だけは伸びているとか、具体的な数字はわかりませんが、そういうようなことを聞いております。

我々も、この後、やはり食べ物を大事にするということと同時に、バランスのとれた摂取の仕方を啓発していかなければいけないと思っております。

そういう意味で、最近、私どものイベントの中で、お母さんたちに、自分の好みのスムージーをつくるということをしました。お母さんたちは、それぞれに蜂蜜を入れるなどいろいろな工夫をしてくれています。皆さんはそういう情報をお持ちですから、つくり方を特別に説明する必要はありません。そして、それぞれ好みでつくったスムージーをお互いに試飲して、その中からさらに自分の好みを見つけて、日常の中に取り入れてもらうというようなことやってやります。

私どもには果物などもございまして幅が非常に広いので、そういう意味では、そんなイベントをもう少し続けていきたいと思っております。

答申の中身については、私も非常に勉強させていただきました。ありがとうございます。
○荒川会長 どうもありがとうございます。

西本委員、お願いします。

○西本委員 私は、一般社団法人札幌市食品衛生協会から参加しております。

直接的に児童などに対する食についてよりも、その食をいかに安心・安全に施設に提供できるかということをやっている団体です。

ですので、協会としましては、これからHACCP手法による衛生管理などを徹底して、提供できるようにしていこうということでやっております。

この会議に参加させていただいて、その施設の衛生管理だけではなく、提供する食に関しても、協会としてももう少し意識を持っていたほうが良いということを実感しております。これからも勉強させていただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

○荒川会長 ありがとうございます。

続きまして、行方委員にお願いします。

○行方委員 私ども消費者協会は、消費生活全般なものですから、食に関することだけをやっているわけではありません。

食ということは、人生の長年の基本で、もう10年以上たつたてたのですが、札幌ポトフの会という団体がありまして、メンバーの中には、管理栄養士や栄養士、調理師などがいるのですが、毎月1回、定期的にお勉強会をしています。

なぜ勉強会をするかといいますと、各乳業メーカーや漁業協同組合、札幌市の農政部でやっているさっぽろとれたてっこなどからの資金を受けて、受託いたしまして、それぞれのお料理教室をやっています。

そのために、月に1回、例えば、乳製品であれば、各区民センターやエルプラザの食材研究室でやっているものですから、そのための勉強会をするわけなのです。

それで、皆さんがそれぞれにレシピを持ち寄ってつくって、ここはもう少し工夫したほうが良いのではないかとか、塩分を少し減らしたほうが良いのではないかとというように、みんなで検討して、献立を立てて、各区民センターの調理室を借りて実施しております。

それから、さっぽろとれたてっこについては、札幌市内でとれる野菜を、毎年、食材は変わりますけれども、札幌市内では、札幌黄をはじめとして、コマツナ、ホウレンソウ、

チンゲンサイ、アスパラなどいろいろな野菜がとれます。そのようなものを提供していただいていると思います。乳業メーカーであればもちろん乳製品ですし、漁業協同組合さんからは秋にサケを提供していただいたりします。それは親子でやるのですが、今のお子さんは切り身しか見ていません。ですので、大きな1匹を解体してみせると、子どもさんは、本当に目を輝かせて、前のほうに来るのですね。そして、それを見て、うろこが1センチくらいあって大きくて輝いているということでびっくりして、「僕、これを持って帰ってもいいですか」と言うのです。そういうことは、やはり食育につながるのではないかと考えております。

それから、札幌市の市場祭、消費拡大フェアをことしも9月17日の日曜日に開催します。来場者は前回の資料にも書かれておりましたが、3万人ということですので。私はお手伝いに行くのですが、会場前からもものすごい行列です。そして、あそこは交通が不便なところなので、皆さんは車でいらっしゃるのですが、駐車場案内の方が、あちらに行ってくださいとか、こちらに行ってくださいと誘導していました。

卸売市場ですから、野菜でも、お魚でも全て安く買えるのですが、皆さんはそのことを知っていてくるのです。私どもでは、食と健康を考える会というものがあまして、そのメンバーの方たちが、そのお祭りで、お野菜に関する簡単なクイズをします。○×形式の簡単なものですが、皆さんはお土産が当たることを知っています。トップの人と参加賞の差はあるのですが、それに参加する人がたくさんいて、整理券を配らなければいけないぐらいの行列ができます。

それは、本当に小さいスペースでやらなければいけないので、人数は限られるのですが、最初に残った方は、とてもいいお野菜をもらえるのです。そのようなこともやっております。食に関するさまざまなことを実施して、その間で、各区民センターでお料理教室をするときも、必ず食に関することも学びます。例えば、魚を素材としてつくるときは、お魚の栄養に関することを参加者に必ずお伝えするという形で実施しております。

以上です。

○荒川会長 ありがとうございます。

高橋委員、お願いします。

○高橋委員 皆様の取組を聞いて、非常にすばらしい取組が多いと思いました。

実は、私どもの団体としては、食育に関して、一般市民の方に何かを周知するというようなことは、今の段階では特に行っておりません。けれども、個々の中では、例えば、この会議が始まる前に、荒川会長ともお話ししていたのですが、矯正治療など小児歯科の発達段階では、食材の栄養価などということよりも、むしろ食べ方などを中心にお話しする場面が多いと思います。

また、今の会議の中で出ていましたように、栄養士会との連携というのは、非常に重要です。私どもは医療を中心に仕事をしているのですが、医療の分野では、栄養サポートチームという中で、栄養士さんとの連携があるのですが、実際はなかなか深まっていません

ので、今後、このような会議を中心に深めていきたいと思ひます。

私どもは、食べ物ゝの食材そのものの栄養価について、知識が不足している部分が多いのですけれども、それ以外ゝの食べ方や発育に関する問題などについては、診療室に來られた患者さんに対して広めてまいりたいと考へております。

以上でござひます。

○荒川会長 ありがとうございます。

石黒委員、お願いいたします。

○石黒委員 出席が遅くなりまして申しわけありません。

この学校の例でいひますと、今、ちょうど25ページを見ていて、ああと思っていたのですが、10代後半から30代の世代の食に関する知識や意識、実践面に課題が多いといふことで、まさに、その真ただ中に高校生がいますが、よく考へてみると、家庭科や保健体育で、食べることについての重要性といひますか、意義についての授業ははきちんいたします。

ところが、授業で学ぶことと実践はやはり違ひます。男の子などを見ていて、ちょっと待てよと。今から成人病のことを考へて、塩分制限とか、清涼飲料水を飲まないでとか、それはじじ臭いといふ感じもあります。あるときに、そういえば、家庭科でああいうことを習ったな、これは氣をつけないければいけないなといふことが頭のどこかにあって、あるときにブレーキがかかる、あるいは、ちょっと考へなければいけないなといふようなことを行動に移せる子どもたちが、高校の家庭科必修の中で生まれてきているのだといふふうに思ひます。言ふならば、家庭科や保健体育では、浅く広くといふことで食育を考へさせています。

一方で、おもしろい取組がありまして、例えば、昨年、今年もやっているとありますが、開成中等教育学校は、アニマドレープロジェクトといひまして、恵庭のある農園と提携して種まきから収穫、そして、収穫したものを使つてピザをつくつて売つたりしています。また、それを幾らで売るかといふところまで考へているプロジェクトもあります。

それから、手前みそになりますが、私どもの学校では、選択で週に2時間の家庭科がありまして、その家庭科の中で、弁当づくりコンクールのようなものをして、家庭科準備室の前に、ポスターのプレゼンテーションがあつたりといふことで、そういうことは各学校でもやっております。

何か、1点、豪華主義のようなプロジェクトといひますか、取組がぼんぼんぼんと各学校でありまして、浅く広くといふことで、そうだ、あのとき、あんなことをやっていたといふことが子どもたちの心の中のどこかにあって、将来を考へるといひますか、そういう子どもたちが育っていく、そして、そういう条件を整えていくといふことが高等学校で考へる食育なのだろうと考へています。

スポーツをやっているような子どもたちは、よく考へてはいるのですけれども、多分、子どもたちも、男の子が会社に勤めたら食育などといっている場合ではなくて、パンをか

じって走っていかなければならないという生活をするのだろうなと思いつつ、頑張れよと送り出しているところでございます。

とても参考になる取組の計画ですので、高等学校でも大事にしていかなければならないと思っております。

以上です。

○荒川会長 どうもありがとうございました。

この食育推進会議の委員の皆様だけでも、これだけ聞いて、ええっということがたくさんあります。これが札幌市民全体となりますと、情報共有がなかなか難しいと思いますので、ぜひ、今立ち上げて動いているホームページもどんどん活用して、広く市民にこのような情報が共有できるように、この第3次札幌市食育推進計画ではとても大事なことになっていくというふうに思います。本当に貴重なご意見をどうもありがとうございました。

それでは、全体を通して、何かありませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○荒川会長 それでは、事務局に進行をお返したします。

○事務局(川上健康企画担当部長) 本日は、計画の最終答申案のご審議、そして皆様方から貴重なご意見、また、情報提供をいただきまして、ありがとうございました。

第1回会議が6月末で、本日まで2カ月ほどの、本当に短期間のタイトなスケジュールでしたけれども、その上に、また、事務局では、ぎりぎりまで調整していて、事前の資料送付が直前になってしましまして、資料を読み込むだけで大変なご負担をおかけしたと思いますが、皆様のご協力をいただきまして、本当にありがとうございました。

先ほど加藤から話がありましたとおり、今後は、札幌市のほうで市長が答申案を受けまして、札幌市として庁内で幾つかの会議を経て計画案を決定していきます。その後に、議会への報告をいたしまして、今度は、広く市民の意見を募るということで、パブリックコメントを実施いたします。

その過程の中で計画の変更はあり得ますけれども、これは、あくまでもご審議いただいた答申案を尊重しつつ、変更を行うということですので、ご理解をいただきたいと思います。

計画ができ上がりましたら、当然、皆様にお配りいたしますが、計画をつくったその後が大事ですので、それ以降は、この食育推進会議自体が進捗管理をする場でもありますので、計画策定後も引き続きご協力いただきたいと思います。

3. 閉 会

○事務局(川上健康企画担当部長) 以上をもって、第3次札幌市食育推進会議を終了いたします。

ご協力、どうもありがとうございました。

以 上